

## 令和6年度(2024年度) 第1回図書館協議会 議事録

と き： 令和6年9月26日(木)午後5時～7時  
ところ： 真庭市立中央図書館 3階会議室  
出席者： 清友久美子委員、庄司憲子委員、内藤貴嗣委員、廣瀬正明委員、松尾敏正委員、森年雅子委員、山本信子委員、湯浅稔委員、吉野奈保子委員  
事務局： 西川正（中央図書館長）、佐藤弘敏（図書館振興室室長）、上杉朋子（課長補佐）、横山衣未（上級主事）

### 1. 開 会

#### ○事務局

定刻になりましたので始めます。図書館協議会のみなさまお忙しい中、委員を引き受けていただきまして大変ありがとうございます。これから令和8年までの2年間よろしくお願いたします。

### 2. 委嘱状交付

### 3. 館長あいさつ

中央図書館長の西川です。どうぞよろしくお願いいたします。図書館ではみらい計画にそって活動をしています。この計画の4年目となりました。これまでに学校と公共のシステム統一で学校の皆さんにご協力いただいたり、市民の交流の場の図書館として様々な取り組みを行っています。計画指標である実貸出利用数については相変わらず苦しいのですが、来館者数は昨年、縮小開館していた久世を除いて増えております。人が出会って何かをしていく場としての図書館という意味では活動が広がってきたかなと考えております。今日は皆様方からはどんな風に見えるか、ぜひご意見をお聞かせいただいで、より良い図書館にしていけたらいいなと思っています。

先日、ライブラリーオブザイヤーの優秀賞をいただくことが決定しました。先進的な取り組みをしている図書館に与えられる賞です。今この図書館で取り組んでいることを認めていただけての受賞ということのようです。このように認めていただけることも増えたんですけれども、まだまだ課題もたくさんあります。思うようにいっていない活動もあります。

図書館みらい計画につきましても今年4年目。来年は計画を改定する年です。皆様の任

期中ですので図書館がどうしていけばいいかを一緒に考えていただきたいです。どうぞよろしくをお願いします。

#### 4. 自己紹介

近況報告とおすすめ本紹介。

#### 5. 委員長・副委員長選出

事務局より「R6.9.26 図書館協議会資料」により、図書館協議会について説明の後、委員長・副委員長の選出。

委員長：清友久美子さん

副委員長：松尾敏正さん

#### 6. 議事

##### (1) 真庭市立図書館 一年間のマネジメントサイクルについて(事前資料 1)

事前資料 1 により事務局が説明。

質疑応答等なし。

##### (2) 令和 5 年度活動報告(事前資料 2)

事務局より、事前資料 2 と取組み内容を紹介するスライドにより令和 5 年度の活動を報告。

#### ○委員長

ありがとうございました。写真があると活動の様子が分かりやすかったです。

#### ○委員

実貸出利用率を全国的に高いレベル図書館運営を行っている自治体での数値(30%)に近づけていくことを目標にされていますが、実際に達成している自治体はあるのでしょうか。4万人ほどの人口で30%を達成しているところがあるのでしょうか。人口が少なければ可能性があるとは思いますが人口が多い自治体では難しいはず、真庭市に合う目標設定にしておかないと10%と30%を比較をしてもイメージが分かりません。

#### ○事務局

30%というのは千葉県浦安市の図書館での数値です。浦安市の人口が17万人くらいです。

○委員

そうすると、その数値というのは全国的に特異なすごいケースで、目標という点では岡山市、倉敷市など岡山県内の図書館とくらべると、どういう数値になっているのか気になるのですが、その点はいかがでしょうか。

○事務局

図書館の活動の指標としては一般的には1人あたりの貸出冊数などが多いです。そうすると一部の市民がたくさん借りるだけで数字はどんと上がります。ところが、図書館が市民みんなに利用されているかを本当に測れているのかという疑問があります。この計画を作った時に図書館が市民に愛されているか、うまく運営されているかを調べるには、どういう指標がいいのかを考えました。そこで1年間に1回でも図書館を利用する人を増やすこと、市民、団体、学校との協働事業の内容や開催数などを計画の進捗を測る指標にしました。

○委員

公共図書館では、もちろんそれが一番大切だと思います。税金を使ってやっているのだから市民サービスができるかということ。その視点はすごくいいと思います。

○事務局

ここを見ていただくとお分かりの通り、人口がどんどん減ってるんですね。人口が減っているので貸出者数さえ減らなければ、実貸出利用率は増えるかなと思っていたんです。ところがそうならないんですね。4年間やってみて。

○委員

ちょっと思ったのは10%というのは、もうかなりの上限で、30%というのはあり得ない数値目標じゃないかということです。実際に30%を達成しているところが何をやっているのかというのは気になりますが、市民が図書館の本を借りることが必要なのかと。10%、4,000人の市民が借りているのは十分じゃないかと私個人的には思います。30%も伸ばすことができるのかイメージが湧かないです。

○委員

この話は昨年度からずっと続いているんですけども、真庭市の場合は高齢化率も都市部より高く、かつ自宅から図書館までが遠い。浦安の図書館は電車やバスでアクセスしや

すい便利な場所に図書館があるのではないかと思います。でも、真庭市では図書館に行こうと思うと、車を運転する人じゃないと来れない。真庭市の場合、この立地条件というのが難しい。数値を増やすためには、図書館にアクセスする利便性をあげるとか、全く違うことを考えないといけないのかもしれないと個人的には思っています。

ちょっと別の指標で、図書館ではいろんなイベントや交流をやりました、ということがありますね。図書館の機能として本を貸し出すということの他に、真庭市の場合、公民館が少ないので（基本的に、旧町村に一つしかないと聞いていますが、地域によっては一つもないところもあります）ので、

図書館が公民館的な機能をもたざるを得ない。市民の自治や学びにとって公民館は非常に重要だと思いますが、それが無いということで図書館にさまざまな機能が求められる。そして、いろいろなイベントを図書館がやることによって来館者数はとても伸びてきていると思います。ただ、これも地域格差がありますね。中央図書館はマンパワーがあり、たくさんイベントをやることで、来館者は増えていく。他の地域では、今年、蒜山図書館は結構がんばったよね。美甘図書館も少ないわりに頑張った。でも、落合図書館はどうして増えないんだろう。あまり活動ができてないのかな、とか、そういう部分は気にしたほうがいいかもしれません。来館者が増えることによって、本を初めて借りる人も増えるかもしれないという、そこに期待をしたいと思います。

私は中央図書館のらせん階段のコーナーが好きで、忙しいときは、あのコーナーしか見ません。今であれば、高橋源一郎さんのラジオで紹介された本のコーナーを見て、今日も2冊借りました。ゆっくり書架を回するには時間がないこともありますし、書架をまわっても自分の関心のあるテーマの本ばかりに偏りがちですが、コーナー作りをしていただいているおかげで、普段は目に止まらない本をちょっと借りてみようという気持ちになります。このような本を借りてもらう工夫や空間のづくり、本の見せ方のおかげで、本を借りる人が増えている部分もあるように思います。この部分も数値化できるといいですね。

#### ○委員長

来館した人を貸出に繋がりたいということでやるのがイベントです。とにかく図書館を知ってもらう、図書館に来てもらう動機付けですよね。そこから何を受け取ってもらうかという、図書館は様々な資料に出会ってもらいたいということが一番。ただイベントで終わるのではなく貸出まで繋げることが大事。各図書館でばらつきがあるということはどうしてもありますよね。図書館によって空間、規模、立地などさまざまですので、その中で特色を出していく努力をされているなど来館者数を見て感じました。

#### ○委員

久世図書館はお休みされていた期間もあるということですが、落合図書館は休み期間があったのですか？落合図書館の来館者数の下がり方が気になっています。

○委員長

私は落合図書館で勤めていましたが、手作業なので忙しすぎて人数をカウントできない事も多々ありました。このように割とアバウトなんです。

○委員

それにしても落合図書館は少なめですし、イベントも少なめなので気になります。

○委員

岡山県内で実貸出利用率を出している図書館はありますか。

○事務局

この数字を用いているところはありません。

○室長

本日は非常に参考になる意見が聞けていると思っています。説明するときに、30%という数字自体が伝わりにくいと思っています。皆さんがおっしゃるように、図書館を市民の財産として考えたときに、色々な指標の出し方があります。さきほど話が出たように1人が何冊借りたかという数値もありますし、蔵書の回転数という数値もあります。我々もこの指標の話はずっとしているんですけども、なかなかいい結論がでません。来年度5年間の計画を立てて行くので、今日のような話をどんどんしていただいて、本当にみんながいいと思う指標ができると助かります。

○委員

実貸出利用率を増やすために、「はじめての図書館ツアー」などを予算をかけて、バスも出してやらない限りは、増えないんじゃないかなと思います。

○委員

私も2年間参加させてもらって、毎年この報告を聞いています。一つ言えることは、次に計画を立てる時にこの数値を使わないだろうことは確実ですし、30という数字が出ないことも確実です。しかし今の指標なので報告をしなければいけないということになっています。ただ、なぜ10%なのかという考察と今後の計画の改善点はどんどんあげるべきだ

と思います。次の計画に繋がっていくような図書館の活性化の話を出来たらいいですね。

○委員長

この話題はいったん終えて、6年度の活動計画と重点取組についてお聞きしましょう。そこで、またご意見をお願いします。

(3) 令和6年度の活動計画・重点取り組みについて(事前資料3)

事務局より事前資料3-1から3-7により説明

○委員長

今年度は継続的していくことと新しい取組みも行うということです。何か質問等ありませんでしょうか。

○委員

今年度「manabo-de」で中央図書館のシアターを借りて事業をしたり、3月には若者を集めて図書館で文化祭をする計画をしています。市民が図書館で活動できるっていう中に、若者の活動も増やしていただけたらと思っています。高校生、大学生がもっと図書館を利用する。その橋渡しを我々ができたらいいなと思っています。

○館長

中央図書館には子どもたちがたくさん来てくれています。キッズスペースが中学生でいっぱいになっていたり、飲食スペースが高校生でいっぱいになっている時もあります。うれしい反面、乳幼児と保護者が入りづらくなってることも。ルールでしぼるか、いや、それはなるべくやりたくないね、みたいなはなしをずっとしてるっていうのが今の状況です。これは勝山の中高生にどこかに集まりたい、たまりたいっていうニーズがあるんだと思うんです。本当はまちのどこかにそういう場所があればいいのですが。誰かの家に集まるのも難しくなっていますし、ショッピングセンターもない。これは図書館だけの課題ではなくて、社会の課題、まちの課題だと思うんです。みんなで話していけたらなと思っています。「manabo-de」さんと一緒にやってみましょうと声をかけていただいています。図書館職員は見回りするだけの監視員ではなくて、中高生と顔見知りになって、もっと違う関係をつくりたいと思います。ちゃんとした信頼関係があれば注意をしたところで、じゃあもう来ないってことにもならないはず。そういうことも含めて一緒にトライしてくださるということなので、本当にありがたいなと思っています。また経過をご報告していきます。

○委員

公共図書館とシステムが繋がって、この春から中学校はどうなったかということをお話しします。うちの学校の司書は週2日来てくれています。直接やりとりする中学生の数は増えてはいませんが、その理由としては蒜山図書館の方に直に行く事が多いんだという話でした。なんとか、学校図書館でも本に接してもらいたいということから、毎月30冊ほど子どもたちのニーズに合うような本を公共図書館から借りてきて、目をひくような工夫をして貸出を増やそうとされています。もともと月に100冊くらいは借りて朝読書などで読んでいるので、中学生は読書に親しむ習慣ができています。今は公共から30冊借りて、楽しそうな新しい本に触れる機会があるのがありがたいです。

○委員

公共図書館とのシステム連携ができてありがたいなと思っています。それから、学校司書がどの学校にも週1回は来てくださるようになって、非常に充実してきています。R5年度の取り組みの報告にもあったと思うんですが、司書と先生が連携した授業なんかを学校の方でどんどん取り入れてくれたらなと思います。地域の方から公共図書館が遠いので学校の中で借りられないかという声をいただいて、ちょっとずつ学校司書にご協力いただいて始めているところです。利用された方があらためて中央図書館に行かれて、中央図書館の素晴らしさを語ってくださいました。そういったことから図書館と繋がることができて、とてもいいなと非常に感じた次第です。

○委員長

今、どういう形で利用をされていますか。

○委員

2週間に一度は学校の図書館にきてくださっている方が数名おられます。お子さんが小学校にいない方にも利用していただいています。

○委員長

お子さんが通っていないと学校へ行きにくいことがあるのではないですか。

○委員

そのあたりをどうすればいいかなと考えています。中央図書館にも足を運ばれている方だったりするので、どちらも使っただけでいます。

○委員

私は久世図書館に読み聞かせに行かせてもらっているんですけども、昨年くらいから読み聞かせに来てくださる親御さんがすごく減ったんです。どうしてかなと思うんですが分からなくて。一歳になったら保育園に行かれる方も多いので、そういう方も増えたのかなと思うんですけども、その前の年までは本当にたくさんの方が来てくださっていました。口コミかなと言ってみたり、司書さんとこれからどうしていこうかという話をしています。落合も「スイートブック」というのをされているんですけども、そこも少ないようです。サポートあいにチラシを置きますよとか宣伝に来てくださいますとか色々、図書館の方にお伝えしているんですけども、どういった方法がいいのかなと思っています。ちっちゃい赤ちゃんがいても読み聞かせに来たらお母さんも育児から離れる時間が持てますし、赤ちゃんも良い時間を過ごすことができると思うので、もっと来ていただきたいです。来ていただくために良い方法がないでしょうか

○委員

私の商売から言わせていただくと、この夏は車の使用頻度はすごく下がっています。あまりの暑さにエアコンをガンガンつけて燃費が悪いというデータもあり、暑すぎて家から出るのも大変ということなのかなと。読み聞かせとか涼しいところに行こうというよりは、もう暑すぎて家から出ないという人がすごく多かったです。買物についてもまとめ買いをされる方が増えたということも聞きました。異常気象の中で人の行動が変わっているという話も聞きました。それが図書館にあてはまるかまでは分かりませんが。

○委員長

それはあるかもしれませんね。ちいさい子がいると、余計に外出しづらいですよ。毎年こんな暑さになってくると違う対策が必要になるかもしれませんね。

○委員

ちょっと質問です。みらい計画は図書館そだて会議のアイデアからできているじゃないですか。図書館そだて会議は各館で行っているんで、各館ごとに毎年の計画が上がっているということなのでしょうか。中央図書館でやっているおもしろい取り組みは、例えば館長会で共有してますか。図書館そだて会議の場で、他の図書館の取り組みを共有することはあるのでしょうか。

○事務局

図書館振興室の職員と館長とが分担して全館のそだて会議に出席しています。



○委員

なるほど、そこで情報提供しているんですね。その辺の横連携があると良いなと思ったりしました。やっぱりなんてたって中央図書館がやってることが多いと思うので、良いアイデアのものとか、これで来館者が増えたとか巡回展をすとか、うまく連携できるというなと思いました。

○副委員長

1点だけ気になることがあって、さきほどの読み聞かせの事なんですけど、久世には「ふわりん」ができたり新しい施設ができてたりして、そちらに流れているのかなというのが一つ。あと、ホームページで拝見させていただくと、中央図書館のイベントページがすごく豊富で、例えば久世とか落合はイベントページのタグがなくて情報が伝わってないような気がするなと思います。第2子、第3子だったらやってるよということは知ってると思うんですけども、初めてのお子さんを持った人は知らないのかも。ちょっとそこが気になった部分です。

○館長

言い訳をすると、定例のイベントは各館ともやっているんですよ。HPの特性上、表にあまり出てこないっていうのがあって、今後の課題です。

○副委員長

伝わっているかという部分ですよ。

○館長

読み聞かせは、ホームページの定例イベントの部分に入ってるんです。それがちょっと表に出づらくて、毎月しっかり定例でやっていることが目立ちにくいのは問題だなと思いました。

○委員

司書の人員の関係で、当然、中央図書館は司書が多いわけで、そのぶんイベントがしやすい。他の所は司書の数が足りないのでイベントができないということはあるのでしょうか。

○室長

あると思います。やはり落合図書館なんかは地区館の中でもかなり貸出冊数が多くて、司書はそちらにかなり時間を取られるという側面はあります。言い訳にははいけないうすけれども、ただ、同じ地区館でも差はあると思います。人員の問題は我々もなんとかしたいんですけど、今の時代そうそう人員を増やしてもらえない現状があります。

#### ○委員

私個人的にはイベントというのは全てのところがどんどんやらなくてもいいのかなという気がしています。中央図書館は得意なイベントを土日などにどんどんやればいいし、他のイベントが少ない館はイベントじゃない方法で図書館の魅力を発信すればいい。だからイベントっていうのはパツと華やかなんで目立つと思うんですけども、そのイベントはあくまでイベントであって、その図書館の来館者数だとか貸出返却の一部でしかないように思います。

#### ○室長

貴重なご意見ありがとうございます。図書館の職員も図書館が主催するイベントだけでなく、利用者の方々からイベントや企画ができる場にしていけるように心がけてきています。委員が言われたように、図書館だけでやろうとすると、職員に人数によって差ができてしまう。しかし皆さんが自由に使ってもらえるようなところにしていければなと考えながらやっていきたい。

#### ○館長

何かしたいなと思った方が、来てくださる場になりたいと思っています。そして、図書館はそれに応えて、一緒に考える人がいる場所にしていきたいと思っています。ただ、さきほど公民館の機能の話にもなりましたが、そうしたまちづくりや社会教育の機能が働くためには、そのためのワーカー（専任の職員）が配置される必要があると思います。企画する人がいないとことは起こりませんし、市民からもちこまれた時にその声に応えて企画になっていくということもないと思います。今は、各図書館の司書が図書業務をしながら、その役割をしているわけですが、この部分を発展させていこうと思ったら、人を充てる必要があります。図書館に人を充てるか、または公民館や振興局に専任の人をおくか、いろいろなパターンがあると思うのですが、なんらかの人が必要であると思います。これは図書館だけの問題ではなく、まちづくりや社会教育全体として議論していく必要があることだと思います。

#### 7. その他

○室長

協議会の次回日程は2月27日の15:00からとさせていただきます。

8. 閉会

○事務局

それでは閉会を松尾副委員長よりおねがいします。

○副委員長

今日も活発なご意見をいただきまして、良いお話ができたかなと思っております。私から1点だけ素晴らしいなと思うことをお話させてください。図書館のメンバーが地域に積極的に入ってるんですね。地域づくりの会合とかにも皆さん入ってこられて、一緒にやろうというスタンスがすごく見えるんです。先ほどもイベントとかで地域の人から声がかかるとかっていう話もありましたが、やっぱり地域に出るっていうのがすごいなと感じています。その他にもすごいと思ったのが、図書館のInstagramなんです。リールでですね5,000回も再生されている動画がありまして。この5,000再生は、ただ館長が水やりをやっている動画なんです。5,000回というのはすごいことです。地域と交わるという意味合いでは今日どうしても発表して帰りたいなと思いました。今後もInstagram等みなさん見ていただければと思いました。今日はどうもありがとうございました。

以上